



有佐小だより

令和6年 3月21日

第11号

文責 岩見 浩史

学び続ける教師たち

私たち有佐小学校の教師は、昨年度の熊本県学力・学習状況調査や学校評価の結果分析などで明らかになった子どもたちの実態から、令和5年度に重点的に育成する資質・能力として「自ら学ぶ意欲」「伝え合う力」を掲げました。それらを育成するために、校内研究のテーマを「学ぶ意欲をもち、主体的に学び続ける児童の育成～個別最適な学びと協働的な学びを通して～」とし、授業の工夫や家庭学習の充実に努めてきました。1年間の実践のまとめを八代市教育委員会主催の教育論文・教育実践記録に応募したところ、「特選」をいただきました。これまでの実践や先生たちの努力等について評価していただいたことを大変うれしく思うとともに、子どもたちに必要な資質・能力が育成されるように教育実践の工夫・改善にさらに取り組んで参りたいと思います。有佐小の先生方は今後も「学び続ける教師たち」としてがんばりますので、来年度もご支援・ご協力をお願いいたします。



1年間を振り返って

保護者や地域の皆様には、1年間本校の教育活動に多大なご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。今年度始め、校長から子どもたちに「成長するために努力してほしい3つのこと」について話しました。一つ目は「めあてや目標を分かりやすく立てて、挑戦していこう!」です。PTA新聞第3号にも書きましたが、「克己心」を高めていくには、目標を立てて具体的に努力を積み重ねることが大切です。2つ目は「自分のいいところを、どんどん出そう!」です。子どもたちは一人一人多様で、長所も短所もそれぞれ違います。それぞれのよさをみんなのために発揮することで、自己効力感が高まり自尊心も育っていきます。3つ目は『「ありさ運動」に自分から取り組もう』です。「ありさ運動」は長年有佐小学校で取り組まれている活動で、その取組は当時の文部大臣賞を受賞しています。「あ…あいさつしよう ありがとうと感謝して」「り…理解第一 よく話し合い わかり合い」「さ…さっさとやろう すすんでやろう」の3つの合い言葉からできていますが、今も子どもたちに必要な力として色あせることはないように感じます。

1年間を振り返って、「めあてや目標を分かりやすく立てて、挑戦していこう!」については、各学級の発達段階に応じて家庭学習の計画を立てて後で振り返らせたり、夏休みなどの長期休業前に調べ学習のテーマや調べ方を考えさせたりしてきました。子どもたちもだんだん慣れてきたように思いますが、もっと日常的に自分の目標を意識しながら生活できるようになるとさらによいと思います。「自分のいいところを、どんどん出そう!」では、授業だけでなく行事や休み時間などにも、それぞれの個性やがんばりが感じられる場面をたくさん見てきました。なかよし掃除(異学年の縦割り班での掃除)でやさしく下級生に掃除のしかたを教えながら自分も掃除をがんばったり、ピアノ等の習い事をしている子が給食時間のオンラインコンサートに出演してくれたりしました。地域の清掃活動に進んで参加してくれた子は、善行児童表彰を受けました。一人一人の子どもたちのすてきな姿をたくさん見ることができました。「ありさ運動」については、ご家庭も一緒に取組を進めてきましたが、後期の学校評価でお知らせしましたとおり、「あいさつ」などもう少しのところが残り、継続してがんばってほしいと思います。

有佐小学校の素晴らしいところは、子どもたちはもちろんですが、学校と保護者と地域が一体となって子どもたちのためにがんばっているところだと感じます。来年度も連携を深めながら子どもたちのよりよい成長を目指していきましょう。